

# 被爆・戦後63年 核兵器のない平和で公正な世界へ

## 被爆国の草の根から行動と連帯を

世界中のどこにも広島・長崎を  
くりかえさないために

今から63年前：8月6日広島、9日長崎に、人類史上はじめての原子爆弾がアメリカによって投下されました。爆風、熱線、放射線が人々を襲い、二つの都市は壊滅し、その年の暮れまでに広島で14万人、長崎では7万余りが亡くなりました。どうか生きのびた人々にも、やがて「原爆病」という名の放射線被害がおそいかかりました。放射線の影響は、63年たった今なお多くの被爆者を苦しめています。核兵器は人類と共存できない最悪の残虐兵器です。もう世界中のどこにも広島・長崎をくりかえさない誓いを新たにしましょう。核兵器廃絶の願いを署名に託してください。

### 原水爆禁止2008年世界大会に 国連代表・非核国政府・NGOが集う

2010年春にニューヨークで予定されている次回核不拡散条約（NP T）再検討会議に向けて、「核兵器のない世界」を求める声がこれまでの枠を超えて広がり続けています。このような中、今年も8月6日、9日を中心に広島・長崎で開かれる原水爆禁止世界大会には、国連本部からの代表をはじめ、エジプト、キューバ、ベネズエラなど非核国政府、世界の主な反核平和のNGOが参加します。

政府と市民の交流・連帯で、全世界の草の根から核兵器廃絶の声と行動を集結する歴史的な大会となるでしょう。

### 2010年NP T再検討会議へ向け 問われる日本政府の態度

世界の大多数の国がいま、核兵器廃絶の「明確な約束」実行や核兵器廃絶にいたる交渉の開始をもとめ、多くの米閣僚経験者やNATO（北大西洋条約機構）諸国の閣僚までもが「核兵器のない世界」のための行動を呼びかけています。ところが日本では、ミサイルを

配備したり、原子力空母配備を容認するなど、と

うてい被爆国政府とは言い難い行動をとつてい

ます。政府に求められるのは、憲法9条と非核三原則を守り、核保有国に核兵器全面禁止をはたらかけること。2010年に向け、日本政府が



「核兵器のない世界」に向かう流れを前進させる

ために役割を果たさせましょう。

### 原水爆禁止日本協議会

〒113-8464 東京都文京区湯島2-4-4  
TEL.03-5842-6031 FAX.03-5842-6033  
<http://www.antiatom.org/>